

総括研究報告書

1. 研究開発課題名

地球規模モニタリングフレームワークにおける各種指標の検証と科学的根拠にもとづく指標決定プロセスの開発

2. 研究開発代表者

森 臨太郎（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）

3. 研究開発の成果

本研究の目的は、母子保健領域をモデルとして、各種指標の有効性と限界を検討、保健政策の真の目標となる最終アウトカムに直結し、かつ国・地域の状況に即したコア指標を作成することである。また、この過程を、客観的かつ科学的根拠にもとづいた指標決定の標準的方法として策定し、新たに開発した統計学的手法および策定した指標決定のための標準的方法を用いたパイロット研究を行うとともに、世界に発信して世界標準としての普及を目指している。本研究は、以下の4つの分担研究班により実施されており、それぞれの平成27年度の成果を以下に示す。これまでの研究活動を通して、国際誌に29件、国内誌に2件、国内外学会に3件、国内学会に3件の発表を行っている。

1) 最終アウトカム指標の理論的研究

WHOの健康定義や我々が行っているWell Beingに関する系統的レビューの結果に沿った、より包括的な最終アウトカム指標の方向性を理論的研究によって示すべく、理論構築を進め、論文の形として体裁を整えた。

2) 母子保健の各種指標の検証、系統的レビュー・ガイドラインとの比較

WHOが世界29か国で実施した地球規模の母子保健データであるWHO Multicountry Study On Maternal and Newborn Health (WHOMCS)の2次解析を実施した。またこれらの研究成果を踏まえ、WHOと連携し、更に効果的な診療指針(ガイドライン)の作成を進めるため、新たに策定される指標の評価や応用への提言を行った。分娩施設ごとの適切な帝王切開率を計算するグローバルなモデル(WHO C-model)の作成、WHOガイドライン(WHO recommendations for prevention and treatment of maternal peripartum infections、WHO recommendations for antenatal care)の出版などに貢献した。

3) 各種指標の国・地域による優先順位の検証

母子保健に関与する様々なインディケータ収集されているが、これらのうち、未活用のデータ、各国固有のデータを探索し、有効に活用しうるよう政策提言を創出することを目的に、ラオス国のLSIS(Lao Social Indicator Survey)の解析・検討を行った。出生登録と関連する因子やSkilled Birth Attendantが介助する分娩を推進する要因の分析を行った。また、ラオス国保健省下の国立公衆衛生院、WHOラオス事務所担当者等との検討会議を行った。先述の分析結果とあわせてラオス政府への政策提言報告書を作成し、手交した。ラオス国の母子保健政策の見直し時に本研究結果が参照される予定である。

4) 指標決定の標準的方法の開発

保健政策の真の目標となる最終アウトカムに直結し、かつ国・地域の状況に即したコア指標を作成すべく、WHOの周産期医療に関する世界規模のデータセットであるWHO Global Survey on Maternal and Perinatal Health (WHOGS)およびWHOMCSの統計解析を実施、国ごとにより多くの妊婦および胎児・新生児の予後を改善する可能性が高いと考えられる介入のリストを作成した。これに加えて、真の目標となる最終アウトカムの施設や国・地域間の優劣に対して、インディケータとなるような各種プロセスが寄与する割合を、その施設や国・地域ごとに算出し、それぞれの状況に応じて優先すべきインディケータとする方法を試行した。